

■ 「東静岡地区まちづくり基本構想」策定の目的

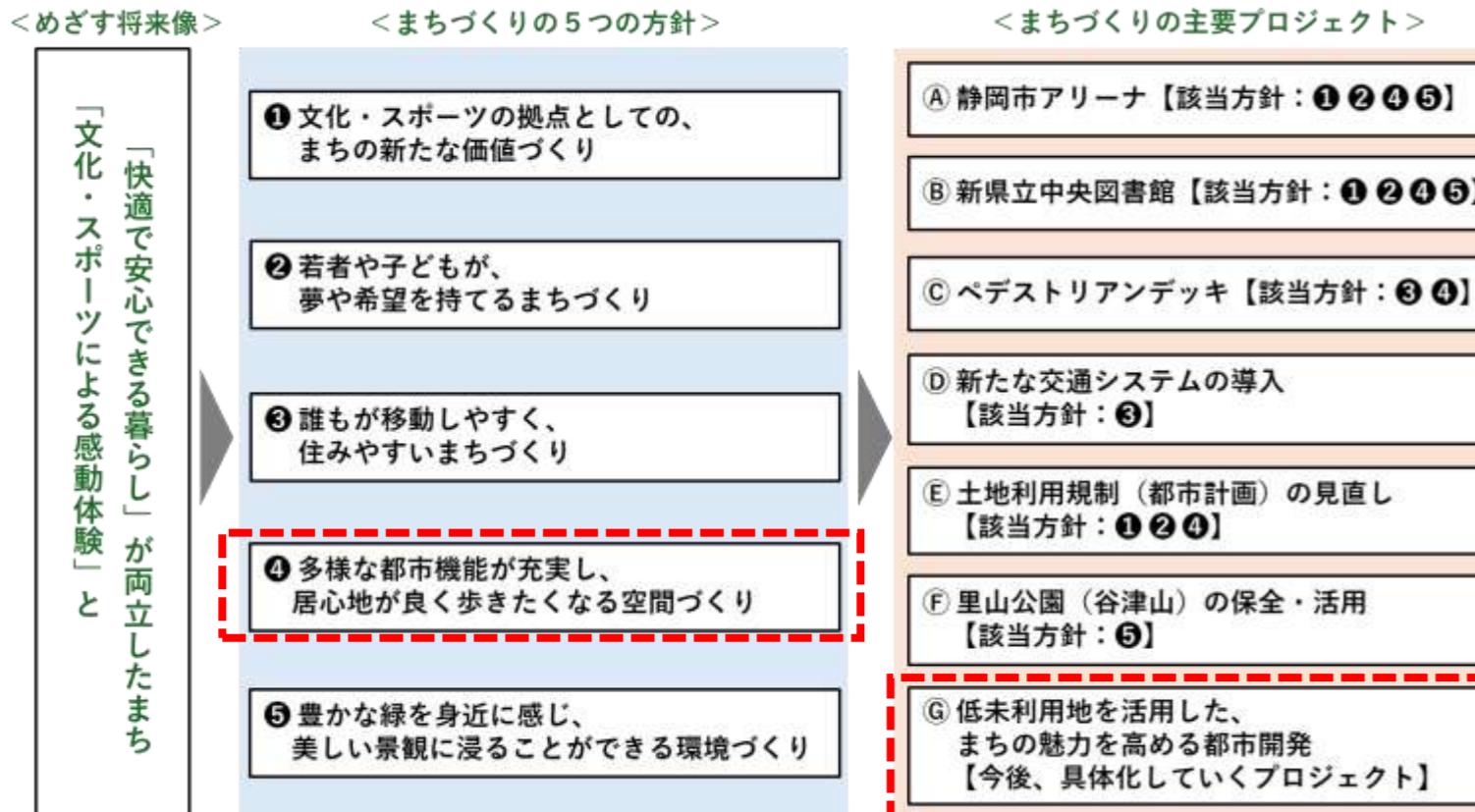
- 市民、民間事業者、行政が共に東静岡地区の将来像を描き、共有し、共創のまちづくりにつなげること

人口減少や地球温暖化といった時代の大きな変化を捉え、20年、30年、その先の未来も楽しく住みやすい東静岡地区にしていくためには、**市民、民間事業者、行政**など、まちづくりに関わる人達が、地区的将来像を描いて共有し、それに共鳴・共感する人の輪を広げながら協働・共働の取組を実践し、その取組が成功する体験を通して、社会全体による共創のまちづくりへつなげていくことが重要です。

そのために、まちづくりの関係者が行動するための指針となる「東静岡地区まちづくり基本構想」を策定します。



■ 基本構想の全体像

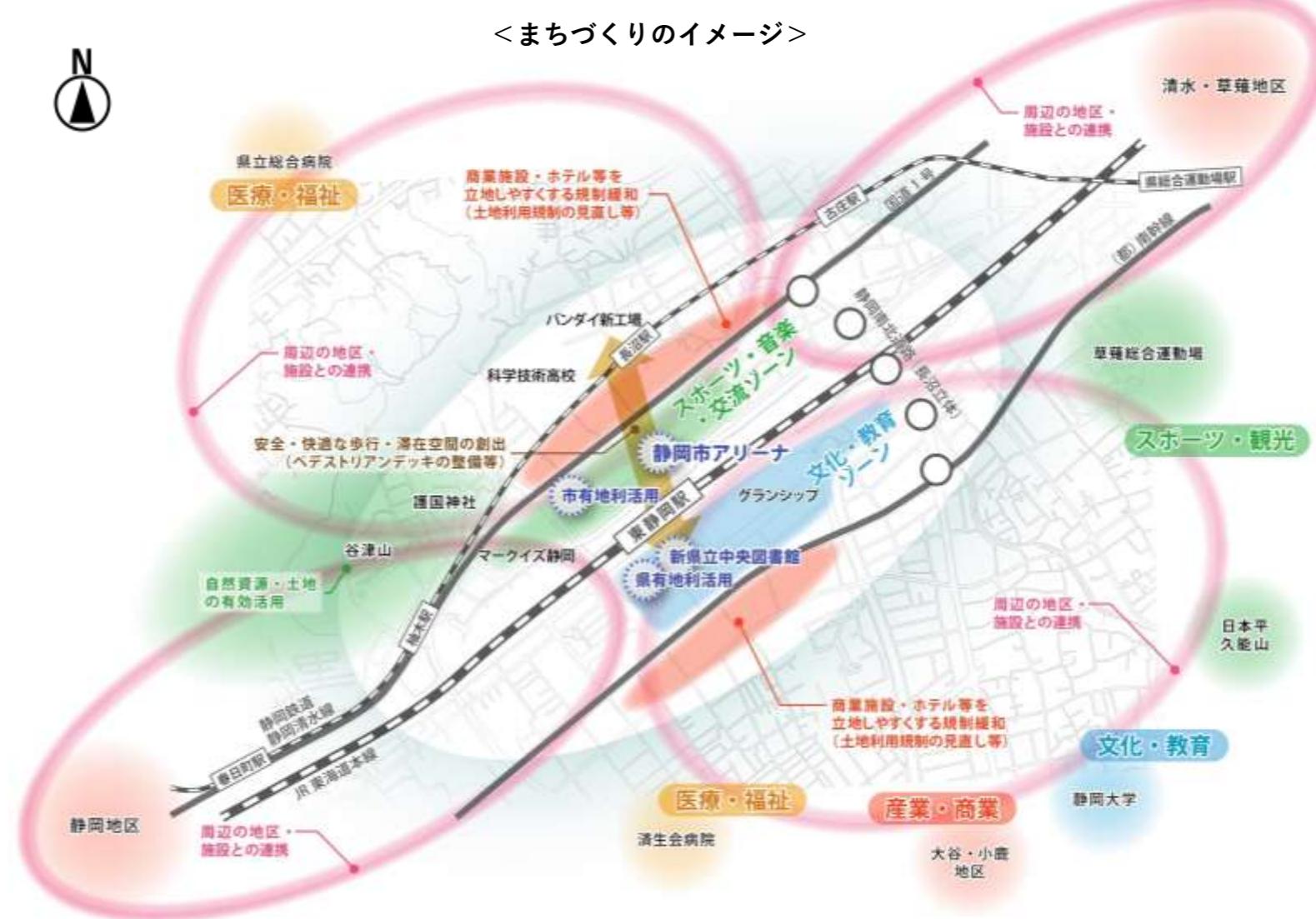


1. めざす将来像

「文化・スポーツによる感動体験」と「快適で安心できる暮らし」が両立したまち

～最先端の文化・スポーツ等による新たな交流・滞在の創出（非日常）と、
快適で安心して住み続けられる環境（日常）が共存する、非日常と日常が融合した都市拠点～

東静岡地区を中心として、鉄道や新たな交通システム等による東西南北の各地区と連携した面的なまちづくりを進め、その大きな経済社会効果（まちの魅力向上、文化振興、地域経済の活性化など）を市全体へと波及させていきます。



文化・スポーツによる感動体験

- ・たくさんの楽しい催しによ
ワクワク・ドキドキを体験
 - ・未来に夢や希望を持てる



快適で安心できる暮らし

- ・交通利便性が高く移動しやすい
 - ・医療施設が身近になる安心感
 - ・豊かな緑と美しい景観に浸れる



2. まちづくりの5つの方針

① 文化・スポーツの拠点としての、まちの新たな価値づくり

- 東静岡駅北口の静岡市アリーナや、南口の新県立中央図書館の整備を活かした、文化・スポーツ・音楽と触れ合える空間づくり
- 既存のグランシップを含めた各施設の連携と、施設を活用した人が集まる仕組みづくり
- 文化・スポーツの資源等の固有の魅力を活かした、選ばれるまちづくり 等



② 若者や子どもが、夢や希望を持てるまちづくり

- 若者・子育て世代が「住み続けたい、訪れたい」と感じ、進学や就職で一度静岡市を離れても、帰ってきたくなるまちづくり
- 市外・県外の方が「住んでみたい、訪れてみたい」と思えるまちづくり
- まち全体で「青春（自分のやりたいことに向かって真剣に取り組む状態）」を、育み・支え・応援できる空間・仕組みづくり
- 学生や子ども達と地域をつなぐ場での滞在・交流を通して、地域への関心や愛着を育てる（教育機関との連携等）



③ 誰もが移動しやすく、住みやすいまちづくり

- 鉄道・バスや自転車に加え、次世代モビリティ*、モビリティハブ*の導入も含めた、誰もが移動しやすいまちづくり（バリアフリー、ユニバーサルデザイン、利便性の高い公共交通、自転車の走行空間や駐輪スペースの確保等）
- 安全・安心で住みやすいまちづくり（AIオンデマンド交通*等の新たな技術・交通体系を活用した、医療・福祉施設や教育施設、産業・商業施設との連携）
- 東静岡駅～長沼駅の連絡動線の強化（ペデストリアンデッキの整備等）
- 地域の生活環境の保全に向けた、国道1号等の道路の渋滞対策

*次世代モビリティ：最新技術を用いて従来の交通手段や交通システムを進化させたもの
*モビリティハブ：公共交通機関やシェアモビリティ等複数のモビリティの乗り換えの拠点
*AIオンデマンド交通：AIを活用し、利用者予約に対しリアルタイムに最適配車を行うシステム



④ 多様な都市機能が充実し、居心地が良く歩きたくなる空間づくり

- 土地の使い方やまちの密度のルールの柔軟な見直しによる良質な民間投資の誘発（ホテル・商業施設等の立地や、生活環境の改善）
- 低未利用地を活用した都市開発による魅力的な空間づくり
- 多様な人々が思い思いに過ごすことができる、人中心で居心地が良く歩きたくなる空間づくり
- 多様な世代にとって住みやすい住環境を創出するため、暮らしを豊かにする都市機能の充実
- 災害時には安全に避難できる空間や設備の確保 等



⑤ 豊かな緑を身近に感じ、美しい景観に浸ることができる環境づくり

- 健康で快適な生活・気候変動対策・生物多様性の確保等に向けた、緑地保全や緑化推進
- 市民が身近に自然と親しむ里山公園として、谷津山などの自然環境の保全や活用の推進
- 公共建築物や民間施設での敷地内緑化などによる、良質な都市緑地の創出
- 環境に配慮した都市開発事業の促進（ZEB*、再生可能エネルギーの導入等）
- 富士山や谷津山の眺望等の地域の特性を活かした、美しく風格ある景観の形成



*ZEB：省エネ、創エネによりエネルギー消費量の収支ゼロを目指す建物

3. まちづくりの主要プロジェクト

Ⓐ 静岡市アリーナ【該当する方針：①②④⑤】

■めざすアリーナ

- 最高峰のプロスポーツの試合や大きなコンサートなど、これまでの市内の施設では開催できなかった、さまざまな大型イベントを開催できる多目的アリーナ（8,000席以上）の実現をめざします。



アリーナのイメージ（沖縄アリーナ）

■まちづくりにつながる多機能施設

- アリーナ単体ではなく、まちづくりにつながる多機能施設（宿泊施設・飲食・物販・教育施設等）をアリーナの付帯施設として検討します。

■防災施設としてのアリーナ

- 大きな災害のときは、広い屋内スペースを活かした支援物資の受け入れ、仕分けのほか、避難所として避難者の受け入れを担う防災拠点となります。

Ⓑ 新県立中央図書館【該当する方針：①②④⑤】

- 静岡県は、現在の県立中央図書館を東静岡駅南口に移転する予定です。
- 県立中央図書館は、「静岡県立葵文庫」として1925年4月1日に開館し、2025年4月1日に100周年を迎えています。
- 新県立中央図書館は、デジタル技術の進展などを踏まえた新施設となる見込みです。

Ⓒ ペデストリアンデッキ【該当する方針：③④】

- 東静岡駅、長沼駅とアリーナをつなぎ、歩行者と自動車の動線を分けることで、来場者や住民が安全・快適に通行・滞在できるよう、ペデストリアンデッキ（高架の歩行者空間）を整備します。

Ⓓ 新たな交通システムの導入【該当する方針：③】

- 来訪者の地区内外の回遊を促すとともに、地区住民の買い物や通院など日常生活の利便性向上を図るため、AI（人工知能）を活用した、移動のニーズに合わせて運行する乗り合いの交通手段の導入をめざします。

Ⓔ 土地利用規制（都市計画）の見直し【該当する方針：①②④】

- 地区内の土地のより自由かつ高度な利用を可能とし、商業施設やホテル等が立地しやすくなるよう、国道1号沿線、南幹線沿線等の土地の使い方やまちの密度のルールをバランスよく変えていくことを検討します。

Ⓕ 里山公園（谷津山）の保全・活用【該当する方針：⑤】

- 谷津山は、市民が徒歩等でアクセスできる市街地に近接した貴重な自然環境であり、社会全体の力による「共創」により自然環境の保全と活用を進めています。

Ⓖ 低未利用地を活用した、まちの魅力を高める都市開発【今後、具体化していくプロジェクト】

- 地区内に点在する県有地・市有地等の低未利用地を活用し、県市連携による魅力的な都市空間の実現に向けた都市開発を進めます。



※出典：LIFE Streaming



※出典：東静岡「緑と水が織りなす新しい東海道」
子育て世代が集う、持続可能な理想都市
まちの魅力を高める都市開発のイメージ（アイデアコンペでの提案より）



※出典：ヒガシズ 陸立つ！

役割分担と今後の進め方

まちづくりを進めていくためには、市民や事業者等の様々な主体と行政がお互いに役割を明確にしつつ、連携・協力してまちづくりを進めていくことが必要です。

